

探鳥会レポート

◆9月23日(日)：甲山探鳥会

◇三ツ谷 孝

“甲山のタカ渡り”の担当になると事前調査は欠かせません。それは探鳥会の日に参加者からタカの飛び数を聞かれるのと、自分なりに予測をしその精度を磨くためでもあるので、1週間前から甲山に飛んでくるルート元の主要観察地のカウント数と天気データを精査検討をします。この3年前頃から飛来する条件がよくても観察数が少ないのが気がかりです。

今日の探鳥会は全天曇りでタカが出るとすれば低く(観察しやすい)数が少ない予想を立てていましたが、予想に違わずサシバ・ハチクマなど観察できましたが数は少なく、サブタイトルの“タカ柱を見つけよう”は来年に持ち越しです。小学生の参加も今日は多く着ていただき、タカ観察を通じて自然環境の改善に少しでも貢献する大人になっていただくことを願うものです。

◆9月26日(土)：

徳島県鳴門山と吉野川河口探鳥会

◇出口 敦司

タカの渡りでは、数は多くないものの退屈しない程度に飛んでくれ、時折近いところを飛び、参加者から歓声が上がっていました。吉野川河口は時間帯が悪かったのか、シギチの数、種類とも、期待には程遠かったのですが、ホウロクシギとダイシャクシギを並べて見比べたり、アカアシシギも間近で観察でき、違う意味で喜んでいただけたと思います。

◆10月18日(日)：日岡山探鳥会報告

◇名越 正男

雲ひとつない空が広がっている。仕度を整えて出発しようとした時、「カラスとタカが飛んでいる。」との声。真上に下面が白くて長い翼のタカらしい鳥をカラスが追い回している。(あれ? コミミズクのようなのだが、この

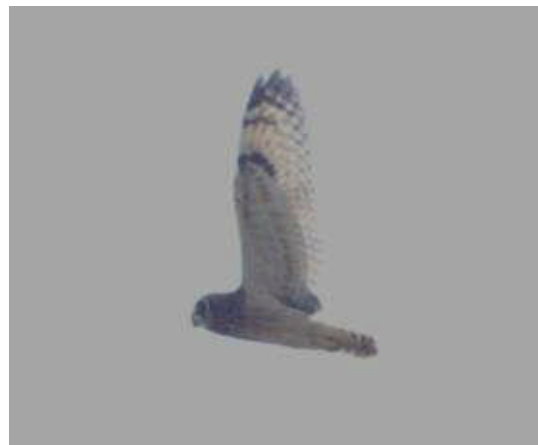
時刻にこの場所に出るかな?) そう思って羽を見ると、翼角の近くに黒いパッチが。「ノスリのようなです。」そう言いながらまだ観ていた。翼ヒラリヒラリさせている。(ノスリと飛び方が違うようだ) そう思って見ていると二人のカメラマンが上手く写真を撮っていた。見せてもらおうと頭が大きくて丸い。翼もととても長い。『コミミズク』だった。

先の十字路に混群が出て、コゲラが三羽忙しそうだ。そのうち二羽がケンカをはじめ、一羽が頭の毛を逆立てた。赤い羽根がはっきり見えた。「コゲラの♂です。なかなか見られませんよ。」全員じっくり確認した。

そして田園でノビタキ。大豆と雑草の生えた畑の奥の畔にノビタキ二羽。もう冬羽になりかけた♂、さらに南の開けた田で近い距離で見える。望遠鏡に入った姿はまだ夏羽に近い。3~4すべて雄の羽の姿だった。大きい目と長い脚が可愛い。

後ろのグループから「キジがいる」と大声。引き返すと、東の斜面に緑色も鮮やかな赤い顔のキジの♂。ゆっくりと歩いて国鳥の姿を披露してくれた。

探鳥会で初めてのコミミズク、赤い冠羽のコゲラの♂、いろいろな羽色のノビタキ、そして、美しいキジ。全34種。爽やかな秋の一日を楽しめました。



▲コミミズク (撮影：高橋弘行)